

県内百貨店・主要小売店6月実績

●百貨店	売上高		客数
岐阜高島屋	▲20.8		0.4
●小売店	売上高		客数
	全店	既存店	
バロー	5.3	3.6	▲1.3
Vドラッグ	4.8	4.2	▲1.5
ホームセンターバロー	▲0.6	▲2.8	▲6.3
セリア	2.7	▲1.6	▲1.9
ヒマラヤ	▲1.8	▲6.8	▲10.3

※数字は前年同月比の増減率。▲はマイナス。Vドラッグは中部薬品など3社の合計。ホームセンターバローはホームセンターバローなど3社の合計



県内に拠点を置く百貨店・主要小売店の6月上高実績(速報値、小売店は全店売上高)は、各社とも集客面で苦戦する中で、6社のうち3社が前年同月を上回った。

岐阜高島屋は、隣接する柳ヶ瀬グラッスル35の開業効果が続き、客数は前年実績とほぼ同水準を維持。前年に実施したカード優待会が今年にはなかった影響もあり、売上高は大幅減。商品群では紳士カジュアルや口紅が好調だった。

6月の百貨店 小売店売上高 3社が前年を上回る

セリアは新型コロナウイルスの5類移行に伴いメイクグッズが好調。夏のレジャー需要を狙った商品提案に手応えがあったが、客数は伸び悩んだ。担当者は「月初めの悪天候がマイナスに響いた」と分析した。

バローは生鮮食品と店内調理のパンが好調。節約志向の高まりでまとめ買いの客が増え、生鮮食品の大型パック化もあって客数は減少傾向。Vドラッグは薬品と食品が好調だが、化粧品は振るわず。ホームセンターはリフォーム用品以外の苦戦が続く。

ヒマラヤは客数、売上高ともに前年同月を下回った。